

母校大学院設置成る



東京歯科大学同窓会会報

東京都千代田区神田
三崎町一ノ七

発行所

東京歯科大学同窓会

編集兼加藤倉三
発行人

電話九段(33)8446(代)

御挨拶

福島秀策

去る三月二十五日付をもって大学院設置に対する文部大臣からの正式許可書が参りました。誠に御同慶に堪えません。トンネル工事の最後の穴が明たような気持がいたします。然しながらこれからの上上げ工事が大変で愈々人が通つたり車が走つたりすることの出来るまでには、なお一層の努力を要するものと覚悟しております。本館南側に新装成れる八階建の建物の偉容を仰ぎ見何時しみくと「ローマは一日にして成らず」という感を深くし、明治二十三年の発祥以来先哲の遺業の累積であり又七千同窓の物心両面とも不断の御支援であるという事に思い到り頭を下げるのであります。総ての道はローマに通じるようにと、全同窓は激励して下さいました。教職員一同はこゝに決意を新にして邁進したいと思つています。



待望の大学院

四月一日開院

全国同窓の待望久しかつた大学院は、四月一日いよいよ開院の運びとなつた。近代建築の粋をこらした地上七階地下一階の偉容を誇るこの建物は、道行く人の目をそばだせている。

三月二十九日午後二時より新装なつた大学院地下で厳かに修成式が行はれ、大学関係者、同窓、鹿島建設工事関係者等参集盛会であつた。式終了後福島学長の案内で学内を見学し、三時から全員祝杯を挙げて前途を祝つた。

写真説明

- (上) 新装成つた母校の正面
- (中) 附属病院玄関内景
- (下) 新館保存診療室



お知らせ

母校大学院認可に伴い来る六月十四日(土曜日)午前東京歯科大学大学院設置建築落成披露式が挙行され、翌六月十五日(日曜日)午前本会六月份例会が開催される予定であります。追て詳細は確定を待ち次号(六月上旬刊行予定)に発表御案内申し上げます。お知らせ致します。

(東京歯科大学学会例会は六月十五日(日)午後開催予定)

夏期講習会

開催予告

本年は久方振りに本会主催夏期講習が開催されることに決定した。

七月中旬より八月上旬に亘り一講座三日間で、基礎臨床の各部門に就いて講習が行われる。会費は一講座約四千円程度の予定であるが、科目、講師講座別講習日割等は次号に掲載予定

第六十二回卒業式挙行さる

新鋭会員一七二名を迎う

去る三月二十五日、例年の如く午後二時より母校において学部卒業式が行われた。今回は、第六十三回卒業証書授与式であり、下記一五三名の諸君が芽出度く卒業証書を授与された。福島学長の挨拶、文部大臣を始め各方面よりの祝辞があり、本会を代表して西村会頭より祝辞が述べられ、卒業生を代表して本田正宏君より、謝恩の辞が読まれ厳肅かつ盛大に挙行された。

同日夕刻には、品川プリンス・ホテルにおいて華やかな謝恩会が開催され、新卒業生諸君も花にさきがけて春に酔っていた。

なお本会は、卒業式前日の二十四日午後三時より、母校第一講義室において、新入会員となられる学部並びに衛生士学校卒業生諸君を招待し、心ばかりの歓迎会を催した。

(広島県) 谷本健二(愛知県) 今泉功(三重県) 稲浜洋一(東京都) 高木稔(東京都) 岩松健雄(茨城県) 片岡保夫(神奈川県) 井上長生(広島県) 川口晃司(静岡県) 河村孝昭(福島県) 木田 昭(東京都) 小林真一(北海道) 木津弘司(新潟県) 古田島耕三(千葉県) 齊藤安広(埼玉県) 高野恭(岡山県) 久門田研治(神奈川県) 佐藤裕(静岡県) 栗山稔(長野県) 松原和生(東京都) 松沢政敏(東京都) 長内功(静岡県) 三浦洋介(三重県) 村田佐班(福島県) 本田正宏(福島県) 野内光雄(秋田県) 小川陽市(栃木県) 齊藤一夫(山形県) 大沼俊哉(東京都) 坂登輝夫(新潟県) 佐藤貞彦(大分県) 重藤信鳥(取県) 中路保宏(神奈川県) 志村明男(東京都) 田中幸光(静岡県) 谷口稔(神奈川県) 渡辺温美(群馬県) 村岡友次(京都府) 渡辺泰人(東京都) 山下雅子(千葉県) 柳町利夫(愛知県) 矢頭 洋(静岡県) 内田道彦(東京都) 藤波源(東京都) 安藤義夫(長野県) 新井和夫(東京都) 浅井康宏(埼玉県) 田島篤治(鳥取県) 古田千鶴子(岐阜県) 原 憲次(香川県) 樋出守世(東京都) 堀江英二(北海道) 市之川武(埼玉県) 飯嶋謙治(岩手県) 黒田祐司(北海道) 増田哲男(岡山県) 宮原章郎(熊本県) 木村義浩(群馬県) 守谷道明(東京都) 長島孝夫(神奈川県) 中川宏明(茨城県) 技重夫(東京都) 中田幸一(山梨県) 小川一男(東京都) 大橋和夫(神奈川県) 大和田哲(千葉県) 齊藤利夫(神奈川県) 大津栄

学部並びに衛生士学校の卒業生併せて一七二名の新鋭会員の胸間には本会から寄贈されたT、D、Cのバツジがさん然と輝いている。

新会員諸君の前途を心から御祝いする次第である。

卒業生氏名

(静岡県) 足立 潔(福岡県) 坪根洋右(岡山県) 福田英二(神奈川県) 原田功一(長野県) 服部玄門(兵庫県) 河本宏(埼玉県) 林健一郎(山梨県) 穂坂正典(新潟県) 星野 衛

(東京都) 佐々木正矩(愛知県) 柴田美奈子(長野県) 清水堅三(東京都) 小竹佑(福島県) 菅波要(長野県) 鈴木智大(大分県) 河野公則(長野県) 瀬稔(愛媛県) 塩崎光雄(東京都) 東昇平(愛媛県) 高岡聖(福島県) 田村寛之(神奈川県) 田沢勇(静岡県) 佐塚立二(東京都) 渡辺公武(神奈川県) 荻野篤(静岡県) 渡辺郁馬(東京都) 山田洋子(岐阜県) 山本広之(東京都) 渡辺晋一郎(島根県) 山根守正(宮城県) 横田由喜也(島根県) 吉田滋美(北海道) 相庭昇一(埼玉県) 角田裕(茨城県) 田崎之光(茨城県) 荒川英男(東京都) 原瑛子(三重県) 寺本康郎(群馬県) 星野茂樹(東京都) 市川公一(山口県) 井上昇(長野県) 北原上子(三重県) 楠崎渥(千葉県) 直嶋公一(東京都) 茂木健次(東京都) 長塚長(神奈川県) 中村昭仁(長野県) 植松英臣(静岡県) 大石康雄(新潟県) 岡崎 悟(茨城県) 大住英世(福島県) 小山勉(北海道) 塚本田(愛知県) 佐竹貞夫(東京都) 瀬田和夫(山形県) 菅原佑典(群馬県) 田部井康修(熊本県) 多田昌司(東京都) 高橋重雄(山形県) 竹中敏三(静岡県) 田中寛(東京都) 谷本剛(静岡県) 田代武(岐阜県) 佐々木利文(東京都) 富田修代(静岡県) 植田昭夫(宮城県) 上野博昭(福岡県) 中島一臣(福島県) 渡辺琢也(秋田県) 山内 静(長野県) 柳沢敏夫(新潟県) 吉田茂(愛知県) 吉川功忠男(静岡県) 齊藤英雄(長野県) 松尾学(広島県) 丸田胖(熊本県) 北田賢次郎(茨城県) 田崎良光(愛知県) 沢井邦夫(北海道) 杉村知行(青森県) 跡地敏夫(神奈川県) 宇津木泰男(長野県) 森 康郎(愛媛県) 中島祐佐

褒賞授与者

本田 正宏

右者卒業成績が優等であるので高山奨学金を以て臨時計費個を授与する

枝 重夫

右者在学中の成績が優等であるので榎本奨学金を以て時計費個を授与する

市之川武、本田正宏、富田修代、大橋和夫

右者在学中卒業に精勵し臨床実習成績も亦優秀に付き其賞として同窓会の寄託により同窓会賞を授与する其のほか在学中成績優良者皆勤者卒業論文優秀者に対し、それぞれ賞状が授与された。

衛生士学校卒業生氏名

渋谷洋子、千野純子、九沢芳子、田村久子、石綿源代、咲間玲子、大道寺揚子、岡みどり、高林芳恵、園分ミチ子、沢田梅子、青柳祐、百束雅子、船津輝子、大西順子、原和代、川端博子、明石孝子、高木美陽子

盛会だった

第七十二回例会

去る二月二十三日(日)午前十時から本会第七十二回例会が母校において開催された。十時三〇分、西村会頭の挨拶に次いで、福島学長の「大学院設置」に関する講演があり、同窓各位の御支援を願う時、なんと決意の表明があり、先般欧米の旅から帰国後の講上院長のユーモアに満ちた視察談で午前中の次第を終了、参会者は大きく変貌した母校内を参観した。

午後は、鹿島俊雄日南専務、水野鉦太郎厚生技官の社会保険に関する両エキスパートより三時間に亘り社保の現況と、その対策に就いての詳細な講演があり、来会者を魅了し、四時二十分閉会した。続いて緊急支部長並びに在京評議員会が開催された。

同窓会新旧会頭

歓送迎会

去る二月二十三日同窓会例会終了後、全支部長の発起により駿河台山のホテルにおいて、榎本、西村両先生の歓送迎会を開き、一三三名の会員参加して頗る盛会であつた。当日大阪松本績君、小室史郎君、松江、佐和和美君、秋田、山内馨児君、山形、小林与兵衛君、仙台、梅津義男君、山口、堀井信男君、伊勢、山降源二郎君、新潟、岡田信雄君、名古屋、大橋俊次郎君、豊橋、広田秀夫君、西村植祐君、沼津、徳永寅蔵君等遠来の同窓の顔も見えた。

まず発起人代表大塚豊美君が経過報告をかね開会の挨拶を述べ沢口源作、杉山間多君が交々而先生に対する敬送、歓迎の辞を述べ、榎本先生には記念品を贈呈し、而先生の謝辞ありて開宴。浅草の佐藤徳太郎氏の奇術を皮切りに数氏の十八番が披露されて頗る賑かに時の移るのも忘れて和やかに飲を尽して散会した。



鈴木鍾美助教授ら
第二回アジア歯科
医学會議へ出席
昭和三十年、東京にて第一回總會



母校だより

が開催された、アジア歯科医学會議は、その第二回總會を比国、マニラ市にて、三月二十四日より一週間にわたり、アジア諸国の多数の代表の参加を得て盛大に開催される。我が国からは、鹿島俊雄専務理事を団長とする七名の日本歯科医師会代表団と、四名の業者が之に出席することになった。

本学からは、病理学教室の鈴木鍾美助教授が、又同窓関係では、鹿島俊雄、長谷川慶蔵の二氏が、いずれも同代表として出席されることになり、去る三月二十二日、福島学長、大井教授、松宮教授、その他病理学関係者ならびに日本歯科医師会関係者ら多数に見送られ、フランス航空機にて、空路マニラへ向け元氣に出発した。

なお、本学会講演には、本学病理学教室から、「歯髓ならびに根管治療に関する病理組織的研究」が発表される。又昨年、アメリカ、シカゴ市にて開催された、全米口腔治療学

会より、松宮教授が依頼を受け同学会に出品展示し、絶賛を拍した。歯髓ならびに根管治療に関する研究の美麗なカラー版天然色顕微鏡写真六十余枚が、アメリカより運送され、本学会に展示される。写真は学会出席の鈴木助教授、鹿島俊雄、長谷川慶蔵両君と見送りの福島学長ならびに松宮教授

南鮮同窓ドイッにて
学位を受領
一昨年ドイッ、ミュンスター大学へ派遣中の南鮮ソール大学助教授金用道氏(同窓)は、去る二月二十六日論文通過、ドクトル・メヂナーネ・デンタリエの学位を授けられた。近く帰任される由、謹祝。

松宮教授、文部省委員を
委嘱する
松宮教授は、文部省から學術奨励審議会(科学研究費等分科審議会)委員に二月六日付を以て、また私立大学研究設備審議会委員に昨十月二十四日付を以て、歯学を代表して委嘱された。

アメリカ歯科医師会会長来學
先月マニラの第二回アジア歯科医学會議に出席のアメリカ歯科医師会会長、ウイリアム・W・アルスタット博士夫妻は四月五日本学を訪問し、溝上、杉山、大井、松宮、三崎教授らの歓迎をうけた。

川村顯助手(市川病院内科勤務)
佛政府給費留學生試験に合格
本学市川病院内科勤務、川村顯助手は、本年三月行われた仏政府給費留學生試験に芽出度く合格され、九月パリに向け出発されることになった。留学期間は約一ケ年、渡仏後はソルボンヌ大学にて内科臨床を研究される予定。

母校教職員市川運動場で観戦會

去る四月十二日(土)午後二時より市川所在母校グラウンドにおいて教職員全員のお花見が行われた。昨年同様、血脇先生の奥様をお招きし、今年は故遠藤至六郎先生、佐藤氏未亡人も御來会になり、折りから満開の桜の下で、職員の職場別芸能コンクール等に楽しい一時を送られた。本会からも西村会頭を始め、顧問、参事の先生方も参会された。

四方嘉治郎氏逝去をさる
本会元副会頭、四方嘉治郎氏(島根県松江市堅町四四)は去る三月二十七日逝去された。御葬儀には榎本美彦前会頭が、母校を代表され参列された。詳細次号。

齋藤久教授夫人逝去
母校齋藤久教授夫人いま子様は流行政感のため、去る三月十三日逝去された。

松濤講師転任
母校進學課程ドイッ語担当の松濤講師は今般九州大学印哲主任教授に転任された。

現住所変更(敬称略)

榎 智光 千葉市小中台町一、七三三
石井慎一 三ノ六電千葉(3)九三八三
田村啓子方 文京区駕籠町一六三
吉枝清徳 中央区日本橋江戸橋三ノ五 三木ビル五階
河野 正 和歌山県那賀郡桃山町黒川
真砂市三 北区志茂町二ノ四三六
真砂圭佑 新宿区柏木二ノ一九八
杉山浩一 文京区丸山町三一住宅協
関剛三郎 会 丸山町住宅三一二二
石田周助 会 富山市桜町
石田 明 会津若松市栄町二ノ〇〇
会津若松市栄町三ノ三二

逝去會員

神永幾久雄氏 三、三、三 栃木県折井 四郎氏 三、二、九 新宿区長浜 茂樹氏 三、三、三 鹿兒島県秋山喜代造氏 三、三、八 台東区丸山 武雄氏 三、三、六 山口県四方嘉治郎氏 三、四、七 (名誉會員) 松江市田部井 道氏 三、四、二 群馬県猪鹿倉三郎氏 三、四、五 鹿兒島県鈴木 武夫氏 三、四、四 静岡県オビニオン
意見欄を新設!!!
わたしたちのあすの社会を、明るく住みよく、そして同窓會員の横の連絡をより緊密にするために、建設的意見をあらゆる階層の、あらゆる立場から十分にとり入れて、公正な同窓の声が反映されることが望ましいと思います。
忌憚のないオビニオン(意見)をどしどしお寄せ下さい。
宛先 同窓会オビニオン係
メモ 同窓会本部会費五百円のうち一割の五〇円は、集金手数料として支部に還へられ、二百五十円は共済基金に積立てられ、残りの二百円が事業費として会報発行(年六回)例会、渉外、その他に使われます。

病床の前日歯会長

小椋善男氏に御慰労、御見舞

の運動起る



小椋善男氏は日本歯科医師会会長として二期四ヶ年間の任期を了り、先般退任されたが、目下病を得て母校市川病院に入院加療中である。同氏が日歯会長として在任中、同会本来の目的とする歯学研究の振興、歯学教育の改善、又は社会保険診療等歯科界に面する重要な事項の処置に粘々、献身の努力を傾注されとりわけ、医業界の死活問題ともいへば単独改正、あるいは税制問題、さらに多年の要望であつた歯科医師会館の建設、福祉共済部の創設等、数多くの業績を挙げられたことは周知の通りである。この間同氏は家業を放擲し、最大の犠牲を払われ、しかも出処進退を明らかにされ、同会定款に示された限度の任期を満了し退任された。公明と正義を重んずる崇高な同氏の人物を御察しして、本会顧問、参与、役員、支部長、ならびに皆同僚として苦楽を共にされた日本歯科医師会役員中の同窓各位が相寄り、相談の結果同氏累年の歯科界に対する御苦勞を、いさゝか御慰労、御見舞をしたいと云ふことになり、広く同窓各位の御賛同を御願ひすることゝなつた。

協賛を願う次第である。

鹿島俊雄氏のため

後援会設立

に決定

本会幹事、日本歯科医師会専務理事、鹿島俊雄氏は、日夜わが歯科界のため東奔西走、從横の活躍をしてゐるが、先般日本歯科医師会政治連盟より明春行われる参議院議員選挙に全国区候補者として推薦され、同氏も亦これを受諾されたことは本会報前号に掲載した通りである。

業権の擁護と、業界将来のため同氏のため後援会を結成すべしとの、多数同窓校友諸氏の要望に応え、今般、「鹿島俊雄後援会」が設立されることとなり、當る二十九日設立總會開催と決定した。

☆こ☆

☆ぼ☆

☆れ☆

☆な☆

☆し☆

二月例会当日のこと、昼食にトミィグリンへ現れた福島学長と、若葉

顧問、一本のビールを伸よく分けながら、昨夜所用のため福島学長が遅く帰つたと聞き、若葉顧問が身体を大事にしなさいと、いかにときめつけてゐる。その時の会話に人間は一病息災でゆけとあつた。一病を持つていれば、必ず健康に注意を怠らないというのである。

まことに味うべき言葉である。

レントゲン室が大きくなつて、三崎教授は、訪れる同窓の誰彼をつかまへると必ず建築中の新しい部屋へ案内する、「そこへ歯科用が五台、並んで、この部屋はここから遠隔操作をやるんですよ。このコンクリートには特別に遮断物質が入つていてですよ」とまだ乾かないコンクリートを撫でて、我が子のようにいとはしむあたり、余程の嬉しさと見える。

案外学者とは、このような単純な喜びを追いかけてゐるのである。

相変らず暇を見てはパチンコにいつてゐる大井教授。全国の同窓が来ても控室もなし、どこへ行つていいかさへ判らないという会員からの苦情に、リボンでもつけて貰うかは名案。ちなみに同窓会事務局は元の会議室、即ち正面玄関から入つて左側にあり、事務の三浦君がかくしやくとして若い女子事務員と常在しておられますから、母校訪問の際はここをお訪ね下さい。

級会や研究会をやるとき希望した教授に連絡をどうしたらいいのかわからない声を聞きますが、學術部に大井教授がおられますから、大井教授直接でも母校同窓会でもあつたの労をとりますから、遠慮なく申込まれるようお願いいたします。

第六十三回 総 会 会 議 事 項 (その三)

昭和参拾叁年度東京歯科大学同窓会共済基金会計報告

自昭和三十一年一月一日
至昭和三十一年十二月三十一日

幹 事 井上 真
鈴木 貞一

収 入

一、金壹百九拾貳万八千九百拾貳円也

内 訳

金九拾七万六千九百拾九円

金九拾万五千貳百五拾円

金四万六千七百四拾参円

支 出

一、金八拾七万四千八百参拾円也

内 訳

金五拾四万円

弔慰金各式万円宛

野村公雄君・山本重二君・三島

東海林耕祐君・常磐利弘君・矢島好水君

小林正雄君・丸山英一君・谷定清君

有馬良三君・佐々部謙一君・古谷直行君

杉浦亮一君・阿部 清君・河野恭子君

松尾 保君・鈴木 旭君・木田幸雄君

佐々木俊雄君・河内辰男君・山田耕一君

田中貞次郎君・平井保三君・松添 誠君

木下芳夫君・池田政勝君・今村忠一君

火災見舞金

各参万円宛

小林 作 雄君

高 梨 卯 平君

赤 祖 父 三郎君

神 成 一 郎君

高 橋 常 保君

各五千元宛

矢内 良 俊君

貳万参千元

長竹喜三郎君

弔慰金、見舞金送料

金参千八百拾円

差引残高

一、金壹百五万四千八拾貳円也

内 訳

金七拾万円

三菱銀行定期預金

各地同窓のうごき

東遊会秋季総会

去る十月二十日熱海晴海荘に於いて東遊会秋季総会が催された。当日は折悪しく他の会合と重なったため大分常連の欠席があつたが、それでも横須賀市の大橋氏、三浦市の植松氏の珍らしい顔の参加を得て都合三十七名の盛会、例によつて歯に衣きせぬ昔話や内輪話に花がさき、夜の更けるも知らず、なかには自室に引揚げた時の窓が白んでいたという始末。相変らずなごやかなうちに秋の一夜を過した。

なお、来春二月早々、また熱海に集り新年宴会を開く予定。会員各位の奮つて御来会を期待しております。

同夜決つた次期役員は、会長北村宗一、副会長井上真、幹事神山一郎、三輪源七、睦森語一、小山内喜久治、平出美雄、久木留広、近藤三郎の諸氏にお願いすることにきまつた。

浅草支部

一月卅日午後五時半、田原町料亭「やつこ」に於て新会頭歓迎の新年会を催した。花の雲錦は上野が浅草かと云う有名な句があるが春はまだ浅い。我が同窓の諸君には春がいち早く訪れた様だ。古屋幹事の司会で会を進め支部長の挨拶、西村会頭の慈父のような言葉、就中母校大学院の進展振等々を承り福島学長の東奔西走振りと相待つて我等の期待は大きい。神山方面には沢山の学友さんがあるようだが、同窓の汗とPTAの汗とがマツチして歯学

の華が陽春を待ち構えているような気がしてならない。呑む程に食う程にK君の芸者手品ダンス、N君の磯小S君のT君の手品ダンス、N君の磯節S君の小諸馬子唄、会頭の水際たつたおぼこ、M君の満洲小唄等々数限りなく拍手が湧いて時の移るのを知らんた位だ。中久喜副支部長の中間手締め、熊谷君の音頭取で校歌の齊唱や母校の万歳が次々に繰り広げられ十時頃お開きになつた。

(沢口記) 出席者氏名
沢口源作、中久喜八十、渡辺篤、古屋寛、滝沢一郎、石原文海、武藤十郎、小谷富治、山添新一郎、高田輝雄、熊谷一義、酒井照義、岡田真一、宮下幸男、加藤孝澄、佐藤章、本山周次、池野谷博、加藤(書記)

長野県支部

東京歯科大学同窓会長野県支部合同総会に併せて福島新学長歓迎大会は十月十九日松本市外浅間温泉玉の湯に於て盛大に開く。

開会までに県下各地より遠くは伊那の飯田、東信の佐久地方より、数十名続々と参会す。まづ午後二時福島新学長歓迎大会からはじまる。

地元会員笠原正文氏の進行により、中信支部長森芳夫氏の開辞、東信支部長佐藤信輝氏の歓迎の辞、菊池南信支部長から記念品贈呈、福島学長の挨拶、北信支部長服部左門氏の閉辞でこの幕を閉じ引続き長野県支部総会に移る。

地元笠原清文氏の司会により森支部長から詳細な経過報告、佐藤委員長の挨拶、同氏がそのまゝ議長に選ばれて議事に入り、東歯同窓会長野

県支部設立の件に関し、森氏説明して協議の結果、万場一致設立することに決定、規約を制定して新連合会長に森芳夫氏を、また佐藤信輝、菊池武彦の両氏を顧問に推し、副会長は後日各支部長毎に選出することとし会費年額百円と決めた。なお大学院建設資金の納入促進についても協力を申合せた。

また医博士村吉太郎教授の「最近に於ける歯槽膿瘍治療の趨勢」に関する特別講演に多大の感銘を与へた。同六時から大懇親会に移り福島学長の謝辞、鈴木義三郎県会長ら



の謝辞があつて盛宴に入つたが浅間温泉のきれいだころ十数名はては一人一芸に萃を咲かせ深更に及んだ。第二日目の二十日は天気晴朗、朝九時宿を出発、国宝松本城を観覧して秋色漸く濃き上高地の深勝に向ふ、途中の溪谷は紅葉の錦に筆古にくし難し、午近く上高地に入る。帝国ホテル前にてバスを下り梓川に沼つて、初雪の穂高岳の雄姿を前に、周囲の山々の紅葉を賞でながら

金参拾五万四千八拾式円

昭和参拾壹年度東京歯科大学同窓会収支金計報告

自昭和三十一年一月一日至昭和三十一年十二月三十一日

幹事 井上 真 鈴木 貞一

一、金貳拾貳万七千六百九拾貳式円也

内 収 入

金貳拾万九千六百九拾七式円

金壹万七千九百九拾五式円

支 出

金貳拾貳万七千六百九拾貳式円也

内 収 入

金貳拾万九千六百九拾七式円

金壹万七千六百九拾貳式円

支 出

金貳拾貳万七千六百九拾貳式円也

内 収 入

金貳拾万九千六百九拾七式円

金壹万七千六百九拾貳式円

支 出

金貳拾貳万七千六百九拾貳式円也

内 収 入

金貳拾万九千六百九拾七式円

金壹万七千六百九拾貳式円

支 出

金貳拾貳万七千六百九拾貳式円也

内 収 入

金貳拾万九千六百九拾七式円

金壹万七千六百九拾貳式円

支 出

金貳拾貳万七千六百九拾貳式円也

内 収 入

金貳拾万九千六百九拾七式円

金壹万七千六百九拾貳式円

支 出

三井銀行本店普通預金
自昭和三十一年一月一日至昭和三十一年十二月三十一日

昭和参拾壹年度東京歯科大学同窓会収支金計報告

三井銀行本店普通預金

自昭和三十一年一月一日至昭和三十一年十二月三十一日

昭和参拾壹年度東京歯科大学同窓会収支金計報告

三井銀行本店普通預金

自昭和三十一年一月一日至昭和三十一年十二月三十一日

昭和参拾壹年度東京歯科大学同窓会収支金計報告

三井銀行本店普通預金

自昭和三十一年一月一日至昭和三十一年十二月三十一日

昭和参拾壹年度東京歯科大学同窓会収支金計報告

三井銀行本店普通預金

自昭和三十一年一月一日至昭和三十一年十二月三十一日

昭和参拾壹年度東京歯科大学同窓会収支金計報告

三井銀行本店普通預金

自昭和三十一年一月一日至昭和三十一年十二月三十一日

昭和参拾壹年度東京歯科大学同窓会収支金計報告

三井銀行本店普通預金

自昭和三十一年一月一日至昭和三十一年十二月三十一日

昭和参拾壹年度東京歯科大学同窓会収支金計報告

三井銀行本店普通預金

自昭和三十一年一月一日至昭和三十一年十二月三十一日

昭和参拾壹年度東京歯科大学同窓会収支金計報告

三井銀行本店普通預金

自昭和三十一年一月一日至昭和三十一年十二月三十一日

昭和参拾壹年度東京歯科大学同窓会収支金計報告

三井銀行本店普通預金

自昭和三十一年一月一日至昭和三十一年十二月三十一日

昭和参拾壹年度東京歯科大学同窓会収支金計報告

三井銀行本店普通預金

自昭和三十一年一月一日至昭和三十一年十二月三十一日

昭和参拾壹年度東京歯科大学同窓会収支金計報告

三井銀行本店普通預金

自昭和三十一年一月一日至昭和三十一年十二月三十一日

此処にて記念撮影を行ひ、橋畔の五千尺旅館にて岩魚、ぜんまい等の山の幸にて酒をくみかわし夕陽迫る頃下山解散す。学長、木村教授は夜行にて帰京す。(松森正義記)

学位受領者紹介

谷口富士雄君



熱海市居住の昭和六年卒令兄・晴雄君ともども、昭和二十四年母校卒の新博士は、私の主宰する母校口腔外科教室の出身である。

二十七年一月、慶大医学部寄生虫学教室助手に転じ、精進せられることになった。論文をほぼ完成して、三十年一月、日産厚生会玉川病院歯科にて診療に従事せらるゝこととなり、翌年四月歯科医長となられた。

三十一年八月に論文を提出、翌年一月十四日の慶大教授会では、主査松林教授のもと満場一致通過、越えて三月二十九日付、栄えある医学博士の学位記が授与された。

新博士は目下、熱海市本町三二六で歯科医業に従事せられている。切にご健勝を祈るものである。謹祝。

主論文(一編)

蛔虫卵試験管脱殻に関する観察
イ、細菌及び微の影響(寄生虫学雑誌四巻一号掲載)

ロ、滅菌水中での脱殻について
(同誌四巻三号掲載)

◎参考論文(略) 以上

菅野哲司君



昭和十四年三月、母校を卒業。福島県出身で、大正六年三月三十日生である。

昭和三十三年七月一日、慶大医学部教授会を通過、同八月十五日付で学位記を授与された。同君は昭和十五年一月、陸軍に現役兵として入営、昭和十七年十月、衛生部歯科医少尉に任官、ジャワ島陸軍病院に勤務、昭和二十一年八月に復員された。

翌年八月関東配電病院勤務、二十五年五月東京電力病院に勤務し、傍ら二十七年三月から同病院電撃傷研究室に入室して、慶大医学部外科島田教授、並びに電力病院武藤外科医長指導の下に研究され、今日の栄冠を得られたものである。謹祝

(松井隆弘記)

◎主論文 電撃傷時に於ける血清無機磷の変動に関する実験的研究
(日本外科学会雑誌第五十六回第十一号)

参考論文(省略)

以上

主論文の要旨 成熟家兔に電流を通じた場合には、血清の無機磷が増加し、Caが減少することを知った。電撃傷の場合の血清無機磷の増大は外見に現れない組織損傷の標識となり、ショックが現れると更にショックに因る増加分が加わり、血清無機磷の上昇は顕著となることを測定し得た。

森内 護君



モリウチ・マモル君は千葉県印旛郡印西町大森の出身で、この六月で満三十一。昭和二十五年春本学卒業と同時に母校口腔外科教室研究生となる。翌二十六年春、同教室助手に進み、大井・長尾両教授直接指導を受けつゝ臨床関係の論文三編を完成した。その頃から同教授の依頼を受けて私の教室でも勉強されることになり、別に陽性石鹼液の手術野消毒剤としての殺菌効果の研究と、カンジダの殺菌物質についての研究の二編を完成せられると言つた篤学の士である。

昭和三十年に講師に昇進されて間もなく、正式に、私の教室に籍をおかれて学位論文に精進せられることになった。新細菌性脚気の病原体の発見者たる同窓松川男児博士の特別援助もあつて、松川・三沢菌とその類似パチルス菌の培養要求上の比較研究の難問を見事解決して論文提出された。昨年十月十日の京都府立医大教授会にて、主査藤田秋治博士のもと満場一致論文通過し、去る十二月二十三日付栄ある学位記が授与された。新博士はまだ独身であり、唯一の協力者で、かつ義兄に当る杉並区天沼三ノ七三〇、熊谷義輔歯科医院より目下本学に通動しておられる。謹祝。

主論文(一編)

Bacillus thiaminolyticus およびその類似菌の培養要求「シタミン」十三巻四号掲載(一九五七年)
◎参考論文(略) 以上

一、金壹万参千八百四円也

内 訳
金貳千壹百円
金貳千壹百五拾円
金壹百九拾四円
金九千参百六拾円

一、ナシ

一、差引残高
金壹万参千八百四円也

内 訳
金壹万参千八百四円

昭和参拾壹年度東京歯科大学同窓会資産報告

自昭和三十一年一月一日
至昭和三十一年十二月三十一日

一、金貳百九拾万貳千九拾壹円也

内 訳
金参万四千六百拾六円
金壹百五拾万四千八拾貳円
金貳百貳拾五万拾壹円
金貳拾貳万七千六百九拾貳円
金五万貳千六百九拾九円
金四拾万
金壹万参千八百四円
金六百八拾壹円
金九百八拾六円
金貳万八千八百拾円
金九千円
負債ナシ

幹事 井上 真
齊藤 亮一
鈴木 貞一

門標売上代
バツジ売上代
利子
前年度繰越高

幹事 井上 真
齊藤 亮一
鈴木 貞一

昭和三十一年度経常部現在高
共済基金現在高
基金現在高
奨学金現在高
血脇賞基金現在高
名簿印刷費積立金
昭和三十一年度門標バツジ現在高
カーテックスキャビネット(買入価額)
印章(買入価額)
門標在庫高
バツジ在庫高
同窓会賞牌 十二ヶ

次号掲載

クラス会便り

二 会

例年の同窓会の前夜祭、昭二総会

は既報の如く、湯の町熱海はその名も高き暖海荘の華麗にして眺望絶佳の奥座敷に集る年頃の昭二ハンサム族廿数名の多きを数えたり。遠くは九州の上野、関西の藤原、門屋、名古屋の長谷川、岐阜の松橋、群馬の黒沢、山梨の大森、水上、福島の間谷、山梨の大森、水上、福島の笠間各代表、近くは松井金七郎(大谷)金ちゃんも七、八年振りで出席、社長タイプ実には驚かしたるもの、久々の対面を喜びあり、懐しむあり。凡ての公式は一切明朝以後に決議一決、名幹事振りを発揮せる五十嵐時雄君の司会のもと、現れ出でたる熱海メツチエンに回春の情に高く杯を挙げ秋夜大いに楽しむ。日本舞踊や得難き学術映画に感嘆しきり。祝電、横山幹一郎、武田善四郎、水川勤、倉田環君特に水川君より岡山名産パシモン一箱御恵賜り、一同風味す。紙上にて筆者一同に変わりに厚く御礼申上げます。

当夜熱海市議の谷口晴雄君の尽力多大にして紙上にて厚く御礼申上げます。

我等の演芸部長西堀君の現れざる事は残念至極であつた。立原君指揮棒を握り、校歌並に昭二会歌を合唱、清水孝君の流暢なる日本語の閉会の辞のもと散会、一同一路お江戸に馳せ参す。明年の昭二総会は京洛の地京都にて民主時代に沿ひ愛愛同伴の盛会を催すべく只今より準備中なり。京都の幹事長小池弘君にバトンを渡す。奮闘の程しつかりたのまつせ。当日出席者、上野誠三、笠間武雄、長谷川清、門屋文雄、藤原鎮雄、松橋慎一、黒沢理一、大森茂春、大谷金七郎、水上啓起、矢野貞雄、橋本信義、加藤正衛、中村真治、立原健彦、大西延治、大鶴悦郎、谷口晴雄、高橋信吾、清水孝、五十嵐時雄、島田宗武記

第五十六期会

(いそむ会)

特製の第七回クラス会は、予定通り、箱根路の沢に於て、現地幹事金指・天野(聖)両氏の御尽力により盛大に挙行致しましたのでクラス会各位に御報告致します。

当日は、出席者三十三名で出席予定申込者のうち若干の欠席者がありましたが、家族連れの方もあり、終始なごやかにクラス会の議事を進行し、懇親会に移り、それぞれお国自慢や、思い出話に花が咲き後、来年の再会を約し散会致しました。

翌三日は「文化の日」とあつて箱根名物「大名行列」を見物し、グループ別にそれぞれ帰途に着きました。決定事項は、

一、第五十六期会を「いそむ会」と命名。
二、クラス会費を年間三〇〇円とする。
三、十周年記念行事の件(詳細は、後日郵送致します)。以上
(当日出席者名は省略します。)(松山記)

二 六 会

めつきり寒さを加えた今日此の頃諸兄には御元気で御活躍のことと思ひます。此の会報が皆様の御手許に届くのは年末なることと思ひますがせいの御健康でよい御年を迎えて下さい本年度のクラス会の様子を一寸御知らせいたします。例年の通り十一月三日正午学校に集合し二班に分れ会場の湯河原温泉に向ひました。幸い非常に空いた列車に一かたまりとなり愉快に駅弁り、飲み内に入部湯河原に到着、直通の方々と合流一風呂浴びて大広間に集合非常に楽しいクラス会の宵を開始いたしました。頭がうすくなつたり、ヒゲを生やしたりして外観は少々づつ変わりましたが、いづれを眺めてもあの頃の面目はそのまま、楽しかつた学生時代に逆もどりしていい年をまた運中がさながら子供の如くはしやぎ、唄い、踊り「生きてゐよかつた」の感を深くしました。特に卒業以来始めて出席の四国の塩田君、岐阜の山田君、静岡の笹本(古屋)君、発熱をおして出席の佐塚君、岳父の死去に遭ひ御通夜を抜けてわざと出席された榎本君等クラス会へ限りない愛情を示して下さり誠に幹事始めクラスの全員感激いたしました。宴終れども寝に就く者なく或は語り、ピンポンに狂い、チャンスを囲み、夜の湯の町に興を求めに散策する者等で床についたのは明方の三時頃二三時

昭 久 会

今回の二十周年祝賀会京都都合は広谷君はじめ地元会員の鋭意企画と熱意により四国地区白井氏スクター事故の為、歩行不能、突然の欠席の他、全地区より五十二名、同伴十七名、総数七十名の空前の盛会にて行われました。

地元会員は早くも二十一日中に京都に集合、前準備にかゝる者、ぞくぞく集る会員を情緒あふ京都案内をして、華々しく前夜祭を行う者等、我々二十一日午前着組を京都駅に出迎える時には早くも意気軒昂、早朝の静な駅を「よう／＼」の挨拶で我物顔に宿舎東観荘に繰込み、二十年ぶりの話に花を咲かせ、早や一時となり、バス一台を貸切り、京都観光

に出発、同伴組は、夫人同志話すかと見れば、同伴一対となつて何やら話をし、京都情緒にびつたり、市内嵐山、と一週りすれば、五時半を過ぎて、幹事は時計を気にする事。宿舎に着いて間もなく、待望の学長の御出で、一同御出迎えをし、御多忙中遠路御臨席を謝す。

早速総会を開く。地元及び東京幹事より挨拶、物故会員に対し目録の後、学長の御挨拶に移る。

先生には、卒業、年度末、等多忙の為、出席危まされしも、かね／＼の御約束、万難を排して皆さんに会えて喜しく又、はじめて、大学院建設の公式発表をこの会合に出来るのは感懐深いものがあるとの御話で、劇的需需気の中に総会を終了。懇親会に移り、同伴夫人の出席もあり、地元ダリりの帯のサービスもあり、いやが上にも賑々しく懇談も出る中を学長には他の会合の為に御帰りになり、今少しく御臨席頂いたらと残念でしたが、之も我々の希望ばかりも言えず、盛会に終り、二次、三次会も同様と思われました。翌朝は前日の懇談、宴会と時間いっぱい盛会の感激さめやらす勢のおもむく所朝食宴会となり、又々幹事は引つ張り出され、司会の下に壇、鈴木等、昭久会の今日までの歩み等四方山話の後、次の二十五周年会場は何処に、と意見を交し合い結局九州別府と決定、九州地区四名の出席会員も快く引受けられ、地元幹事の、観光出発時刻もせまればとの声にて散会、地元会員キモ入りの数々の記念品を持つて三々五々各自都合のよい観光コースをとり出発しました。その後の情報によれば、同伴組が一番阿呆や、悪口を言いながら、ひとり身は前々日來のなじみ

と関西気分を満喫致した様子です、詳細は会誌に御報告します。
夫筆ながら北海道の小林氏学位を得られました御喜び申上げ、御報告します。(安達嘉記)

緑の黒髪は何処へやら滝の白糸や銅鑼頭や霜降りばかりだが気分は廿数年前の学生気分に行行く迄浸つたことである、各自思ひ／＼のかくし芸も飛び出し殊に埼玉の高柳君の堂に入った手品には吾々ばかりでなく旅館の女中さんや番頭さん全部来て感心した次第。

に寝かして下さる様、之れもクラスの会のおひひの一つ。
終りに、最近近くなられた会員の中現在知つて居る名を掲げて、共にその冥福を、お祈りし度いと思ふ。
水川君、清水(忠)君、アンリー君である。三君共何れも脳溢血にてたはれたとの事、此れを見ても、吾々は目下、危険水域に入つて居ることを自覚して、お互に健康に注意して、毎年のクラス会には一人でも多く、出席して大いに若返るふではありませんか。(幹事 田上末吉記)

すると云ふ有様であつたとは云へ久しい前からの懸案であつたクラス会の関西旅行が実現したのであるから愉快である。
地方と会員の、並々ならぬ骨折り(とき) 十一月十五日、十六日、及び十七の三日間
(ところ) 京都、奈良方面と云ふことに決定された。
尚ほ、このクラス会には、家族慰安を加味した事として、出来るだけ夫人を同伴することであつた。
その為め、幹事は旅館の世話に云ふまでもなく、普通の旅行では簡単に出来ない。

れない。
宿では、幹事の特別の斡旋で祇園の舞妓の手踊り数番を真近に觀賞した。
何はさて、還暦の老人も、しばし年を忘れて陶然となり、人巧みの極致とも云ふべき、生きた京人形の様な、若い舞妓に見とれて、現実と夢との矛盾の間を彷徨ひ、各自夫々の程度に於て、然るべくよろめいた。
出席会員 伊藤要同夫人、吉沢郁二同夫人、阿部久語同夫人、土屋立誠・渡辺定雄、青木達三郎同夫人、森一作同夫人、西尾松郎同夫人同姪池上一雄、竹下賢二同夫人同長女、久保榮雄同夫人、大谷一郎、長谷川慶蔵同夫人同長男、大坪源一郎同夫人、谷口富治郎、久保田謙次郎同夫人、同長男、飯田吉亮、兄玉正之同夫人、長山参三同夫人、坂部俊夫、松村正澄同夫人、齊藤享同夫人、神作藤吉同夫人、山本勝利同夫人、小山正光、平田正義同夫人、杉山隆七郎同夫人

おもへば、毎年欠かさず開いて居る戊午会として、今年も出席率は実に空前であつた。併し、あえて絶後とは云へません。一年一度の会合に、今まで欠席して居た会員が、新らしく一人でも、出席して呉れたなら、決して今年の出席率も、絶後とは云ひ切れない筈です。
然かも、夫人をかくも多数同伴して出席せられたことも、本会としては空前であつた。
但し、帰路京都のお土産を、それからそれと買い込まれ而して持たされて、少なからず迷惑した御主人もあつたらしかつたが、是れも、家庭円満の一助となつたにほかならないと、堅く信じて筆を擱きます。
(長谷川記)

母校卒業以来二十七年齢既に四十八才の抵抗も過ぎ身も心もある程度安定した頃と相成つた。

校内に於ては松宮君、関根君も一流のプロフツサーとして自他共に仰るす地位を確保した、地方にあつては政界に或は自己の職域に重要なポストを占めて居られることと思ふ。

吾々珊瑚会が集りの少い為めか割合に団結が足らぬ様に云はれるが決してそうとは思はれん何故なれば今社会にあつて皆中堅として重要なポストにつき活躍せられて居る、為めに自己の意志によつて行動せることが困難な立場にある為めと思ふ十一月中旬クラスの案内状を差出した処欠席会員から止むを得ざる事情の為め出席致し兼ねるから皆様によろしくとの鄭重なるお便りを山の如く頂戴して居る何卒今後共事情の許す限り多数会員の御出席をお待ち致して居る次第

誰か之れを関根君に見せたら大変喜ぶんだがナとは、真におしかつたその後松宮君のローマ学会のスライドを一時間に渡つて説明下され一般の学会には聞かれぬ処を、クラスメイトとして遠慮なく質問して聞かれたことは非常に有意義な思出の一つとなつた。
宴終つて各自室に引上げた頃丁度山梨県の勝沼の同窓、古屋君から葡萄園主として心をこめて送つて下された、一箱の葡萄を皆で頂戴した、今年更ら本場の葡萄の味を湯の町で戴ふとは思はなかつた、こゝにあらためて古屋君に厚く感謝致す次第。
翌四日明元気で起き出で庭園で記念撮影後、朝食をとる星谷君が夕べは関根君のいびきの大きいのはは平降した而も一晩中オールトキには参つてしまつた事、地方の皆様今後関根君をとめる時には、二階か離れ

確かまだ学生の頃に、クラスとして関西旅行をしたことがあるから、今度の関西のクラス会には、あの時から教えること既に、三十七八年を経過したことになる。
何しろあの当時は、皆フサ／＼した黒髪の上にT、D、Cの徽章のついた帽子を戴き、金ボタンの光る学生服の美青年ばかりであつた。そして京都の三条の橋に近い宿と、奈良の猿沢の池の畔とに泊つた記憶がある。然るに今後の旅行では、何と云ふ変わり方であらうか。幾星霜の時の流れにおし流されて、黒びかりのする光頭は無惨にも其の頭髪を失ひ、往時の紅顔の美青年も、昔のおもかげは見るによしなく、或る者は、神経痛の為めに、腰をいためつゝ歩行

又、三日間使用した自動車は、最新式の新車で、然かもその運転士君の技術極めて優秀であつた為め、我等の行が一層快適なものとなつたのである。
その上、これに加へて特筆したいことは、三日間を通じて絶えず示して呉れた、美しい案内嬢の接待振りであつた。
その要領を得た名調子は忘れられない。
最後の第三日目の帰路夜間せまる京の町の大通りで、誰からともなく自然に起つた「螢の光」の合唱。六十を越した老人共が声をはつて歌ふ「螢の光」。是れには、自他ともに少々驚かされた。学校を卒業する時ひさしく歌はなかつた「螢の光」は、是れが、いと自然に起ると云ふので、三日間、常に交らない親切を示して呉れた、美しい案内嬢に対する惜別の感情の一端であつたかもし

母校卒業以来二十七年齢既に四十八才の抵抗も過ぎ身も心もある程度安定した頃と相成つた。

校内に於ては松宮君、関根君も一流のプロフツサーとして自他共に仰るす地位を確保した、地方にあつては政界に或は自己の職域に重要なポストを占めて居られることと思ふ。

吾々珊瑚会が集りの少い為めか割合に団結が足らぬ様に云はれるが決してそうとは思はれん何故なれば今社会にあつて皆中堅として重要なポストにつき活躍せられて居る、為めに自己の意志によつて行動せることが困難な立場にある為めと思ふ十一月中旬クラスの案内状を差出した処欠席会員から止むを得ざる事情の為め出席致し兼ねるから皆様によろしくとの鄭重なるお便りを山の如く頂戴して居る何卒今後共事情の許す限り多数会員の御出席をお待ち致して居る次第

誰か之れを関根君に見せたら大変喜ぶんだがナとは、真におしかつたその後松宮君のローマ学会のスライドを一時間に渡つて説明下され一般の学会には聞かれぬ処を、クラスメイトとして遠慮なく質問して聞かれたことは非常に有意義な思出の一つとなつた。
宴終つて各自室に引上げた頃丁度山梨県の勝沼の同窓、古屋君から葡萄園主として心をこめて送つて下された、一箱の葡萄を皆で頂戴した、今年更ら本場の葡萄の味を湯の町で戴ふとは思はなかつた、こゝにあらためて古屋君に厚く感謝致す次第。
翌四日明元気で起き出で庭園で記念撮影後、朝食をとる星谷君が夕べは関根君のいびきの大きいのはは平降した而も一晩中オールトキには参つてしまつた事、地方の皆様今後関根君をとめる時には、二階か離れ

確かまだ学生の頃に、クラスとして関西旅行をしたことがあるから、今度の関西のクラス会には、あの時から教えること既に、三十七八年を経過したことになる。
何しろあの当時は、皆フサ／＼した黒髪の上にT、D、Cの徽章のついた帽子を戴き、金ボタンの光る学生服の美青年ばかりであつた。そして京都の三条の橋に近い宿と、奈良の猿沢の池の畔とに泊つた記憶がある。然るに今後の旅行では、何と云ふ変わり方であらうか。幾星霜の時の流れにおし流されて、黒びかりのする光頭は無惨にも其の頭髪を失ひ、往時の紅顔の美青年も、昔のおもかげは見るによしなく、或る者は、神経痛の為めに、腰をいためつゝ歩行

又、三日間使用した自動車は、最新式の新車で、然かもその運転士君の技術極めて優秀であつた為め、我等の行が一層快適なものとなつたのである。
その上、これに加へて特筆したいことは、三日間を通じて絶えず示して呉れた、美しい案内嬢の接待振りであつた。
その要領を得た名調子は忘れられない。
最後の第三日目の帰路夜間せまる京の町の大通りで、誰からともなく自然に起つた「螢の光」の合唱。六十を越した老人共が声をはつて歌ふ「螢の光」。是れには、自他ともに少々驚かされた。学校を卒業する時ひさしく歌はなかつた「螢の光」は、是れが、いと自然に起ると云ふので、三日間、常に交らない親切を示して呉れた、美しい案内嬢に対する惜別の感情の一端であつたかもし

おもへば、毎年欠かさず開いて居る戊午会として、今年も出席率は実に空前であつた。併し、あえて絶後とは云へません。一年一度の会合に、今まで欠席して居た会員が、新らしく一人でも、出席して呉れたなら、決して今年の出席率も、絶後とは云ひ切れない筈です。
然かも、夫人をかくも多数同伴して出席せられたことも、本会としては空前であつた。
但し、帰路京都のお土産を、それからそれと買い込まれ而して持たされて、少なからず迷惑した御主人もあつたらしかつたが、是れも、家庭円満の一助となつたにほかならないと、堅く信じて筆を擱きます。
(長谷川記)

母校卒業以来二十七年齢既に四十八才の抵抗も過ぎ身も心もある程度安定した頃と相成つた。

校内に於ては松宮君、関根君も一流のプロフツサーとして自他共に仰るす地位を確保した、地方にあつては政界に或は自己の職域に重要なポストを占めて居られることと思ふ。

吾々珊瑚会が集りの少い為めか割合に団結が足らぬ様に云はれるが決してそうとは思はれん何故なれば今社会にあつて皆中堅として重要なポストにつき活躍せられて居る、為めに自己の意志によつて行動せることが困難な立場にある為めと思ふ十一月中旬クラスの案内状を差出した処欠席会員から止むを得ざる事情の為め出席致し兼ねるから皆様によろしくとの鄭重なるお便りを山の如く頂戴して居る何卒今後共事情の許す限り多数会員の御出席をお待ち致して居る次第

誰か之れを関根君に見せたら大変喜ぶんだがナとは、真におしかつたその後松宮君のローマ学会のスライドを一時間に渡つて説明下され一般の学会には聞かれぬ処を、クラスメイトとして遠慮なく質問して聞かれたことは非常に有意義な思出の一つとなつた。
宴終つて各自室に引上げた頃丁度山梨県の勝沼の同窓、古屋君から葡萄園主として心をこめて送つて下された、一箱の葡萄を皆で頂戴した、今年更ら本場の葡萄の味を湯の町で戴ふとは思はなかつた、こゝにあらためて古屋君に厚く感謝致す次第。
翌四日明元気で起き出で庭園で記念撮影後、朝食をとる星谷君が夕べは関根君のいびきの大きいのはは平降した而も一晩中オールトキには参つてしまつた事、地方の皆様今後関根君をとめる時には、二階か離れ

確かまだ学生の頃に、クラスとして関西旅行をしたことがあるから、今度の関西のクラス会には、あの時から教えること既に、三十七八年を経過したことになる。
何しろあの当時は、皆フサ／＼した黒髪の上にT、D、Cの徽章のついた帽子を戴き、金ボタンの光る学生服の美青年ばかりであつた。そして京都の三条の橋に近い宿と、奈良の猿沢の池の畔とに泊つた記憶がある。然るに今後の旅行では、何と云ふ変わり方であらうか。幾星霜の時の流れにおし流されて、黒びかりのする光頭は無惨にも其の頭髪を失ひ、往時の紅顔の美青年も、昔のおもかげは見るによしなく、或る者は、神経痛の為めに、腰をいためつゝ歩行

又、三日間使用した自動車は、最新式の新車で、然かもその運転士君の技術極めて優秀であつた為め、我等の行が一層快適なものとなつたのである。
その上、これに加へて特筆したいことは、三日間を通じて絶えず示して呉れた、美しい案内嬢の接待振りであつた。
その要領を得た名調子は忘れられない。
最後の第三日目の帰路夜間せまる京の町の大通りで、誰からともなく自然に起つた「螢の光」の合唱。六十を越した老人共が声をはつて歌ふ「螢の光」。是れには、自他ともに少々驚かされた。学校を卒業する時ひさしく歌はなかつた「螢の光」は、是れが、いと自然に起ると云ふので、三日間、常に交らない親切を示して呉れた、美しい案内嬢に対する惜別の感情の一端であつたかもし

おもへば、毎年欠かさず開いて居る戊午会として、今年も出席率は実に空前であつた。併し、あえて絶後とは云へません。一年一度の会合に、今まで欠席して居た会員が、新らしく一人でも、出席して呉れたなら、決して今年の出席率も、絶後とは云ひ切れない筈です。
然かも、夫人をかくも多数同伴して出席せられたことも、本会としては空前であつた。
但し、帰路京都のお土産を、それからそれと買い込まれ而して持たされて、少なからず迷惑した御主人もあつたらしかつたが、是れも、家庭円満の一助となつたにほかならないと、堅く信じて筆を擱きます。
(長谷川記)

母校卒業以来二十七年齢既に四十八才の抵抗も過ぎ身も心もある程度安定した頃と相成つた。

校内に於ては松宮君、関根君も一流のプロフツサーとして自他共に仰るす地位を確保した、地方にあつては政界に或は自己の職域に重要なポストを占めて居られることと思ふ。

母校卒業以来二十七年齢既に四十八才の抵抗も過ぎ身も心もある程度安定した頃と相成つた。

校内に於ては松宮君、関根君も一流のプロフツサーとして自他共に仰るす地位を確保した、地方にあつては政界に或は自己の職域に重要なポストを占めて居られることと思ふ。

母校卒業以来二十七年齢既に四十八才の抵抗も過ぎ身も心もある程度安定した頃と相成つた。

校内に於ては松宮君、関根君も一流のプロフツサーとして自他共に仰るす地位を確保した、地方にあつては政界に或は自己の職域に重要なポストを占めて居られることと思ふ。

母校卒業以来二十七年齢既に四十八才の抵抗も過ぎ身も心もある程度安定した頃と相成つた。

校内に於ては松宮君、関根君も一流のプロフツサーとして自他共に仰るす地位を確保した、地方にあつては政界に或は自己の職域に重要なポストを占めて居られることと思ふ。

母校卒業以来二十七年齢既に四十八才の抵抗も過ぎ身も心もある程度安定した頃と相成つた。